

令和4年度 江戸川区立西一之江小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	よく考えずすんで学ぶ子 思いやりのある子 ねばり強くたくましい子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	子供たちが、「今日は一日楽しかった。また、明日が楽しみです。」と思える学校。 教職員も子供たちと共に学び、自らも成長している学校。 ・明るい学校 ・楽しい学校 ・魅力ある学校
--------	--	----------------------------	---

前年度までの学校教育上の成果と課題	<成果>・コロナ禍においても学校行事を工夫して行うことができた。 ・一人一台端末を取り入れた授業を取り入れた。 <課題>・一人一台端末のより効果的な活用方法を考えていく必要がある。 ・ページドリルの効果的な活用方法を考えていく必要がある。
-------------------	--

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	7つの主要事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・高学年において、学年の実態に応じた教科担任制の実施 ・江戸川っ子study weekの取り組み内容を学校と家庭で共有 ・3年生での辞書引き学習の実施	・東京ページドリル診断テストで、年度末各学年共に10P向上 ・全ての児童のeライブラリアドバンス実施 ・3年生全員が国語辞典の引き方を習得	B	B	・study weekを活用して取り組むことができた。教員が課題を設定することで、取り組みに大きな意が生まれかけた。適切なeライブラリアドバンス実施により10回以上辞書学習や辞書で活用した60%の児童が自主的に活用している。基礎的な事項の確認に役立った。 ・各教科で辞書を活用して語句を調べた。80%の児童が、十分に辞書を活用できている。 ・教科担当前に取り組み、校務の軽減を若干感じることができた。より多くの児童の指導に関われることはなかった。	B	・学力向上に向けた推進プランを策定し取り組んだ。 ・ページドリル診断テストの結果による。	・辞書引き学習の共通理解や、到達指標を定めるなどしたい。辞書引き学習の継続をいつまで行うのか意識統一が必要である。 ・study week実施に伴い、全ての児童の実施は達成されたが、到達度は学級間でも個人間でも差が大きい。 ・教科担任の授業の調整がかなり難しく、年度当初からそれを踏まえた時間割表を作る。
	体力の向上	・運動意欲の向上に向けた取組の実施・充実	・朝の時間を活用しての「元気タイム」の実施 ・「体力テストがんばろう月間」の実施	・体力テスト全種目において、昨年度の記録を上回る	C	C	・元気タイムは雨天で実施できない日があり、体力向上につながらなかったが、子供たちは元気タイムを楽しみにしており、意欲の面では効果があった。 ・90%の児童が昨年度の児童自身の記録を更新しているが、比較対象がそれよりよいかかわからない。	B	・「元気タイム」を創り、運動意欲の向上を図った。 ・体力テストの結果による。	・各学年、隔週の15分間だけで体力の向上を図るのは困難である。運動意欲の向上を図ることは可能でも、それが体力テストの結果の上には直結しない。継続的に運動を続けられるきっかけづくりをする。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・読書科における調べ学習の充実 ・図書室整装活動の実施 ・読み聞かせや図書委員会による活動の実施 ・朝読書の実施	・図書や図書資料などから必要な情報を収集し活用する力の向上 ・読書意欲の向上 ・週1回の朝読書の実施	A	B	・読書科の学習を通じて本に触れあう機会を増やすことができた。調べたまとめ、発表する学習活動を実施することができた。 ・読書科での調べ学習は学期に1回は行うことができた。書籍を使っている情報は70%程度の児童ができるようになった。 ・読書科が設定されているため、本に親しむ活動が最低でも学期に1回保障されている。	A	・図書室は常に整備された状態が保たれ、読書意欲の向上が図られている。 ・読み聞かせについて、「本はともだち隊」「保護者」「上級生」により頻りに実施された。	・読書量や読む本の種類には、偏りがあるため、継続的に本に親しむ活動を取り入れていく。
「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・業務の効率化、SSSの活用	・月80時間以上の残業の解消 ・年10回のOJTの実施	B	B	・学年アシスタントが持つことで、事務仕事の軽減につながった。 ・SSSを活用し、残業時間を抑えることができた。 ・年10回のOJTに参加し、自らの指導に生かすことができた。	B	・業務の効率化、時短を意識した業務に取り組んでいる。	・削減できる部分を全体で検討し、学校として取り組んでいく。	
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副読本、交流及び共同学習の充実	・特別支援教育や特別支援教室について、巡回指導教員、SC、心理士などによる研修会の実施	・特別支援教育の十分な理解 ・特別支援体制の充実	B	B	・SCや巡回心理士の方に助言をいただきながら特別支援教室への入籍を進めることができた。そこでの学びが子供の成長につながっている。 ・特別支援教育に関する研修会で学習したこと、個に応じた指導に役立てることができた。 ・特別支援体制がどのようになっているのか、年度初めに全体で確認できていてよい。	B	・「さくらルーム」の設置など、特別支援教育の広報も実施されており、理解向上を継続している。	・個に応じた指導を心掛けたが、時間の都合などで十分な指導ができなかった。配慮を要する児童も含めて全員が意欲的に取り組める授業を続けていく。 ・UDの視点を取り入れた学習(スタンダードのよなもの)はしっかりと全校で統一する。 ・支援体制は充実しているが今後も続けていく。
	子供たちの健全育成	・子供たちの健全育成に向けた取組 ・人権意識の向上	・hyper-QIやアンケートの実施 ・いじめアンケートの実施 ・なかよしボストの設置	・学級の実態の把握 ・一人一人の声に耳を傾けることによるいじめ・不登校の未然防止 ・毎月第4週に「人権週間」として取り組む	A	A	・常に子供たちの様子を観察することでトラブルにつながりそうな言動を指導することができた。 ・いじめアンケートの実施により、自分から悩みを言えない子供の話を注意深く聞くことができた。 ・hyper-QIで教室の子供たちの実態が数値としてわかり、効果的な学級の実態の把握ができた。	A	・子供たちの表情が良く、特にいじめについての情報もなく、良好である。 ・「いじめ」「不登校」について、未然防止に向けた取り組みを継続的に行っている。	・これまでの取り組みを継続させる。 ・Hyper-QIの結果を分析し、学級経営に生かしていく。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・実施状況を分かりやすくするため、取組の状況を学校ホームページに掲載	・全項目でのB評価以上	B	B	・取組みの状況を学校ホームページに掲載することで、学校関係者以外も学校の取組について知ることができたと考えられる。	A	・学校ホームページに遅延なく情報が公開されている。 ・学校へも訪問しやすい雰囲気が継続されている。	・より情報共有を行い、学校での取組みが保護者地域に伝わるようにする。
	地域と連携した教育活動の推進	・鼓笛隊の取り組み	・中央地域まつりや一之江ふさぎ祭りへの参加 ・校内での鼓笛隊発表の機会	・6年生児童の自己評価肯定的意見80%以上	C	C	・コロナ禍で地域行事が縮小されていたので評価が難しい。 ・校内での鼓笛隊発表は、学年ごとに日時を指定することで児童が鼓笛隊が見やすく児童の満足度が高い。	A	・地域まつり等は「中止」となった。 ・地域では防災訓練で積極的に協力を行い、十分な連携を図った。	・来年度は地域の行事も増えることが予想される。より一層満足度が得られるよう、練習力を入れていく。
特色ある教育の展開	俳句づくり	・豊かな感性と表現力の伸長 ・日本文化理解	・校内及び地域施設への掲示 ・各種コンクールへの参加	・季節ごとに全児童による取り組み	B	A	・俳句作りを通じて日本文化に触れるという経験はできているが、感性や表現力を伸ばすような指導はできていない。 ・句会に向けて熱心に取り組む児童の姿が見られた。	A	・継続的に実施され、作品の掲示、掲載により子供たちの創作意欲の向上が図られ豊かな人間性の形成に貢献している。	・優れた俳句を紹介するなど、感性や表現力を伸ばせるような取り組みをしていく。
	カブトムシ小屋	・環境教育(ESD)・SDG'sの推進 ・生き物を大切にする心構えの育成	・カブトムシの飼育・観察	・3年生児童の飼育・観察活動に対する自己評価肯定的意見80%以上	B	B	・カブトムシ小屋の整備に参加した。 ・児童がこまめに飼育をしても、70%以上のカブトムシが羽化前に死んだので、肯定的自己評価を下す児童は少なかった。	A	・PTAとの連携により、小屋の管理も良好で、生き物に対する心の育成に貢献。 ・カブトムシの育成も順調であった。	・保護者とも協力しながらより良い効果が得られるように取り組んでいく。